

13. 杉田 隆三(1977): 奥山国有林のモミ林
(兵庫生物 Vol 7 No 3)
14. 大川 徹(1977): 六甲のブナ林
(兵庫生物 Vol 7 No 3)
15. 環境庁(1981): 日本の重要な植物群落の分布
全国版)
16. 環境庁 (1981): 日本の重要な昆虫類
(近畿版)
17. 四手井綱英(1978): 落葉広葉樹図譜
斉藤新一郎 (共立出版)
18. 沼田 真(1978): 図説日本の植生
岩瀬 徹 (朝倉書店)

〒671-14
IWAO IWAMURA 姫路市

シロチョウ属 *pieris* 2種の 食草について

広畑政己

県下には3種のシロチョウ属が生息しているが、いずれの種もアブラナ科を食草としていることは周知の通りである。そして、モンシロチョウはキャベツやアブラナ、スジグロシロチョウはイヌガラシを食することはよく知られており、飼育や幼虫を採集された経験も多いことと思う。しかし、これらの種については普通種であるためか、これ以上詳しく調べられていないのも事実である。このたび、西播の各地で採集してきた卵を飼育をした結果、スジグロシロチョウとモンシロチョウが発生したので、その食草を次の通り報告する。

1. モンシロチョウが産卵していた食草

イヌガラシ(夢前町坂根)、クルオメ(上月町下秋里、市川町上牛尾)、カブ、アブラナ(夢前町坂根)。

2. スジグロシロチョウが産卵していた食草

ヒロハコンロンソウ(夢前町坂根、南光町船越)、オオバタネツケバナ(南光町船越)、イヌガラシ(夢前町馬頭)、ケジャニンジン(波賀町原)、ダイコン(市川町上牛尾)。

この他にナズナ、ハクサンハタザオなどで卵を探したが発見できなかった。また、スジグロシロチョウは栽培種では発見できず、傾向としてはあまり日当たりのよいところの食草からも見い出せなかった。食草の同定をお願いした頌栄短期大学の黒崎史平先生にお礼申し上げる。

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市

木曾駒ヶ岳の蝶

苦木隆幸

焼けつくような盛夏の太陽が輝く、7月下旬播磨蝶友会では中央アルプス一帯で採集大会を開催した。今回の目玉は、ムモンアカシジミであるが、同時にツマジロウラジャノメ等も目標の中には、入っている。

1泊2日の予定で、2台の車に分乗し、中国自動車道、名神高速道、そして中央自動車道へと、夜間の高速ドライブである。もうなじみ深くなった、恵那トンネルも、一気に通過し、駒ヶ根サービスエリアで仮眠、夜明けを待った。

今回の調査地は駒ヶ岳山麓でも主として東斜面に的をしぼり、まず標高800~1,000mで前述のツマジロウラジャノメ、ウラジャノメ、フタスジチョウ、エルタテハ等をねらった。

駒ヶ根インターを下り寺沢林道に入る。朝6時前の気温は実にさわやかで自然に親しむ者のみが味わえる、幸福感を満喫する。

朝日がまぶしい駒ヶ根楽園キャンプ場附近に車を置き、本日参加の7人でいよいよ採集開始である。黒川沿いの登山道を、歩きながら木の葉がぐれに、出て来る蝶を、ネットに入れる。終日仲間と楽しく過ごし、命の洗濯をした思いで、満足感一杯の一日であった。

ネットに入った種類は以下の通りである。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 オナガアゲハ | 12 ヒオドシチョウ |
| 2 ミヤマカラスアゲハ | 13 クジャクチョウ |
| 3 モンキチョウ | 14 オオムラサキ |
| 4 スジグロシロチョウ | 15 ツマジロウラジャノメ |
| 5 エゾスジグロシロチョウ | 16 ウラジャノメ |
| 6 コヒヨウモン | 17 ヒメキマダラヒヤゲ |
| 7 ギンボシヒョウン | 18 クロヒカゲ |
| 8 オオミスジ | 19 クロヒカゲモドキ |
| 9 フタスジチョウ | 20 ヤマキマダラヒカゲ |
| 10 エルタテハ | 21 アサギマダラ |
| 11 シータテハ | |

この他に、クモバベニヒカゲ、ベニヒカゲを見ることができた。以上採集年月日は1983年7月30日である。

Takayuki Nigaki

〒675-15 姫路市